



患者さんに知ってほしい、医療従事者からも伝えてほしい、
前立腺がん転移について



認定NPO法人がんサネットジャパン・NPO法人腺友倶楽部・バイエル薬品株式会社 共催

前立腺がんセミナー

もっと話そう 前立腺がん転移のこと くらしを守る早期対応のすすめ

2018年～2019年全国7都市でのセミナー開催報告より

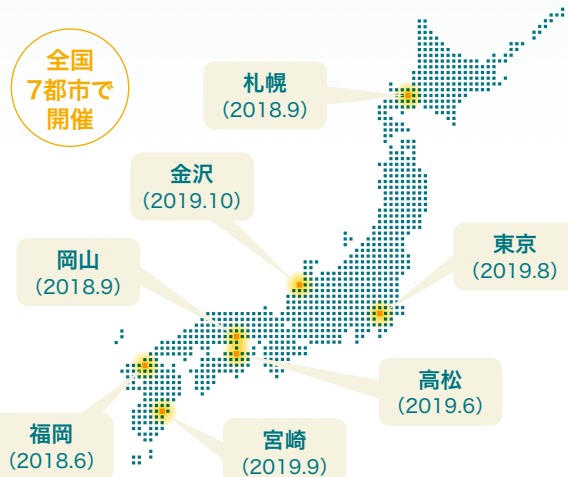


開催の経緯

前立腺がんは進行の遅いことが多いといわれますが、他方で転移を起こす割合が高いことはあまり知られていません。「がんが転移しないか」は前立腺がん患者さんご家族にとってご不安なことです。

バイエル薬品は、患者さんが早期から再発・転移について正しく理解し適切に対応することが、生活の質（QOL）を損なわないために必要であると考え、前立腺がん患者・家族の会「NPO 法人腺友倶楽部」、「認定NPO 法人がんサネットジャパン」と協力し、2017年から前立腺がん転移についての啓発セミナーを共催してきました。

治療を続ける中で、転移についてはどのようなことに気をつければよいか。このセミナーでは、前立腺がんの転移について知りたい方（患者さんおよびご家族）を主な対象に、いつもの生活を守るための心得をお伝えしています。また、前立腺がんでは泌尿器科と放射線科の両科による治療機会が少なくありません。そのため、2018年からは演者として泌尿器科医だけでなく放射線科医もお招きし、またアンサーパッドを用いた来場者参加型のセミナーに発展させました。本レポートでは、両科の専門医のご協力のもと開催した過去2年間のセミナーについてまとめました。



セミナー開催への想い

インターネットの普及により、どこにいてもがんの医療情報を得ることが可能ですが、高齢者が多い前立腺がんの患者さんにとって、正しい情報を取捨選択するのは困難です。地方では患者向けセミナーの数も少なく、また同じ病気の患者同士が集まる機会も多くありません。企業のサポートを受けながら、NPOや患者会が、中立の立場で医療者とがん患者さんを繋ぎ、正しい情報と集う場を提供する意義は大きいです。



認定NPO法人
がんサネットジャパン

前立腺がんの治療法は多岐にわたり、泌尿器科・放射線科の領域に及んでいますが、患者がひとつの医療機関で両科の治療を受けられるとは限りません。しかし私たち患者が治療方針の説明を受けるのは、多くの場合ひとりの泌尿器科医からです。患者によっては治療選択の悩みや後悔が生じる原因のひとつにもなり得ます。こうした状況を改善するには、診療科の横の連携と、広い視野での情報提供、そして患者も学ぶことが欠かせないと思われます。



NPO法人腺友倶楽部



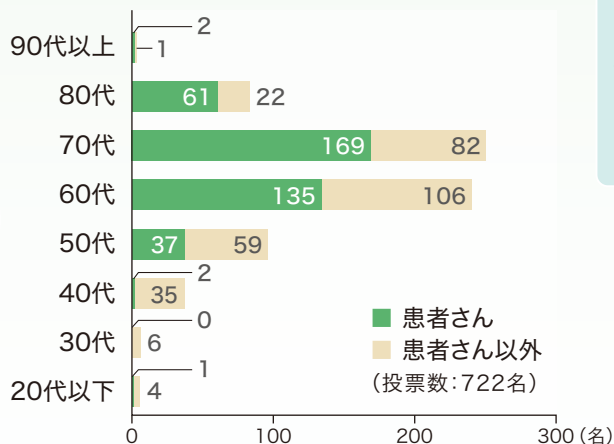
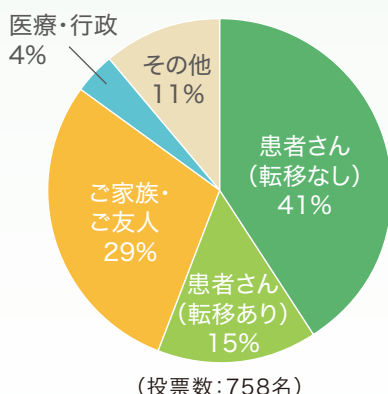
● 開催場所

2018年～2019年の2年間で全国7都市(福岡、岡山、札幌、高松、東京、宮崎、金沢)

● 参加人数

861名(福岡144名、岡山145名、札幌93名、高松127名、東京192名、宮崎67名、金沢93名)

参加者の内訳(背景・年代別)



このセミナーでは来場者にアナライザー(アンサーパッド)をお配りし、会場でのアンケートに任意でご参加いただいています。



PROGRAM

講演①: 前立腺がん転移について知ってほしいこと(演者:泌尿器科医)

講演②: 転移の早期発見・治療のために放射線のできるこ(演者:放射線科医)

講演③: 治療と向き合う上で大切なこと～骨転移を体験して～(演者:前立腺がん骨転移経験者)

グループワーク: 参加者(テーブルごとに講演内容について話し合い、質問を書き出す)

Q&Aディスカッション: 登壇者全員(司会進行:NPO法人腺友倶楽部 理事長 武内 務氏)

開催年月	開催場所	座長/司会*1	講演①*1	講演②*1	講演③	後援
2018.6	福岡	江藤 正俊 先生 九州大学大学院 医学研究院 泌尿器科学分野 教授	塩田 真己 先生 九州大学病院 泌尿器・前立腺・腎臓・ 副腎外科 講師	大賀 才路 先生 九州大学病院 臨床放射線科 助教	川崎 陽二 氏 前立腺がん骨転移 経験者	—
2018.9	岡山	渡邊 豊彦 先生 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 泌尿器病態学 准教授	荒木 元朗 先生 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 泌尿器病態学 講師	勝井 邦彰 先生 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 陽子線治療学 准教授	川崎 陽二 氏 前立腺がん骨転移 経験者	—
2018.9	札幌	永森 聡 先生 北海道がんセンター 副院長	丸山 覚 先生 北海道がんセンター 前立腺センター長	西山 典明 先生 北海道がんセンター 放射線診療部長	川崎 陽二 氏 前立腺がん骨転移 経験者	北海道・札幌市
2019.6	高松	杉元 幹史 先生 香川大学医学部 泌尿器科学 教授	上松 克利 先生 三豊総合病院 泌尿器科 部長	柴田 徹 先生 香川大学医学部附属病院 放射線治療科 教授	川崎 陽二 氏 前立腺がん骨転移 経験者	香川県・高松市
2019.8	東京	武内 務 氏 NPO法人腺友倶楽部 理事長	佐藤 威文 先生 佐藤威文前立腺クリニック 院長	中村 和正 先生 浜松医科大学医学部 放射線腫瘍学講座 教授	堀内 隆 氏 前立腺がん骨転移 経験者	「Japan Cancer Forum 2019」*2 共催セッション
2019.9	宮崎	賀本 敏行 先生 宮崎大学医学部 発達泌尿生殖医学講座 泌尿器科学分野 教授	寺田 直樹 先生 宮崎大学医学部附属病院 泌尿器科 講師	楠原 和朗 先生 宮崎大学医学部附属病院 放射線科 助教	川崎 陽二 氏 前立腺がん骨転移 経験者	宮崎県
2019.10	金沢	溝上 敦 先生 金沢大学大学院 医学系研究科 集学的治療分野 泌尿器科 教授	泉 浩二 先生 金沢大学附属病院 泌尿器科 講師	高松 繁行 先生 金沢大学附属病院 放射線治療科 科長	堀内 隆 氏 前立腺がん骨転移 経験者	石川県・金沢市

*1 ご登壇当時のご所属を記載しています。

*2 主催/運営:認定NPO法人がんネットワークジャパン、後援:厚生労働省、東京都、中央区、国立がん研究センター

セミナーの開催地は、共催団体が検討しながら決定しています。また、当日の運営には現地のNPO団体様、ボランティアの方々のご協力くださっています。

セミナー聴講前、全体の半数以上の方が骨転移の頻度は50%以下と考えていました。また、前立腺がんの患者さんであっても、骨転移の頻度については、他の参加者と同様にあまり認知されていないことが示唆されました。

Frequency	Percentage
Very often	4%
Often	16%
Sometimes	22%
Not often	34%
Never	24%



骨折を防ぐために

- 定期的な骨密度測定
- 無理のない運動
 - ▶ 骨密度の維持・向上
 - ▶ 身体機能の維持による転倒防止
- カルシウム摂取
- 転倒防止のため、室内の整理整頓

2012年2月、前立腺がんステージ4（骨転移・リンパ節転移）の診断を受ける。本業は介護職であり、治療と就労の両立の他、徳島県内を中心に「がん患者支援・がんの啓発」、小中高校への「がん教育講師」などを行っている。

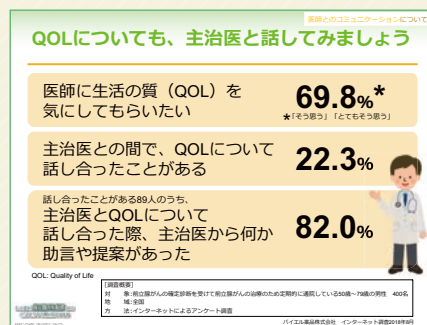
国の「がん対策基本法」では、「がん患者の置かれている状況に応じ、本人の意向を十分尊重してがんの治療方法等が選択されるようがん医療を提供する体制の整備がなされること」を基本理念のひとつに掲げています。

前立腺がんは、転移をしても他のがんと比べて長いつきあいになるがんです。長くつきあう上では、治療の効果だけでなくQOLを保つことが重要であり、そのためには患者さんと医師の十分なコミュニケーションが必要です。

しかしながら、インターネット調査では、医師にQOLを気にしてほしいという方が約7割であったのに対し、実際に主治医と話し合ったことがある方は約2割にとどまっていました。一方で、QOLについて話し合った際には、約8割の方が主治医から何らかの助言や提案を受けていました。

QOLの問題は患者さんご自身からの発信が重要です。国の「がん対策基本法」¹⁾では患者さんの意向を十分に尊重したがん医療提供体制の整備を基本理念のひとつに掲げていますので、ご自身の意向を積極的に主治医に話してみましょう。

主治医への伝え方に悩まれる患者さんは、まずは、「私がどうしても優先したい(続けたい)もの(こと)は_____です」²⁾というようにお話ししてみてもいいでしょうか。



堀内 隆氏

現職の会社員。

2016年10月、前立腺がんステージ4(骨盤・脊椎への多発転移)の診断を受ける。2018年6月にがん患者の「思い」を共有する活動グループを立ち上げ、より多くの人に語り掛けたいと願う活動をしている。



治療と向き合う上で大切なことは「強い気持ちで臨む」ということ

みなさんへのメッセージは、「診察も、相談も、強い気持ちで臨む」ということです。そこに生きる覚悟を問われていると思っています。私の場合、旅行の計画をいろいろ立て、それを実現するために主治医とのコミュニケーションを取ってきました。

大事なのは、自分がやりたいことを「絶対やるんだ」という気持ちだと思います。そうしないと、コミュニケーションも消極的になり、計画自体もすごく小さいものになってしまいます。

前立腺がん豆知識

ALPの測定方法の変更に伴い、基準範囲が変更になります³⁾

2020年4月1日より準備の整った施設から測定方法の変更が開始されます

そもそもALPとは？

ALP(アルカリフォスファターゼ)とはリン酸化合物を分解する酵素で、肝臓、骨、小腸、腎臓、胎盤など全身の臓器に広く分布しています。これらの臓器に異常があると、ALPが血液中に漏れ出し、血液中の値が高くなります。前立腺がんが骨に転移した場合にも、血液中のALPの値が高くなることもあるため、骨転移があるかどうかの参考になります。

どのように変更になるの？

これまで日本国内で使用されていたALPの測定方法(JSCC法)が、世界的に普及している測定方法(IFCC法)に変更になります。それに伴い、ALPの基準範囲が“106～322U/L”から“38～113U/L”へと、約1/3に変更になります。

基準範囲 (成人男女)	● 現行測定法(JSCC法) : 106～322U/L ● 新測定法(IFCC法) : 38～113U/L
----------------	--

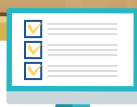
JSCC: 日本臨床化学会、IFCC: 国際臨床化学連合

1) 厚生労働省「がん対策基本法(平成十八年法律第九十八号)」<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0405-3a.pdf> (2020/01/21参照)

2) 国立がん研究センター東病院精神腫瘍学開発部「重要な面談にのぞまれる患者さんご家族へ聞きたいことをきちんと聞くために」
https://www.ncc.go.jp/jp/ncce/clinic/psychiatry/psychiatry_panfu.pdf (2020/01/21参照)

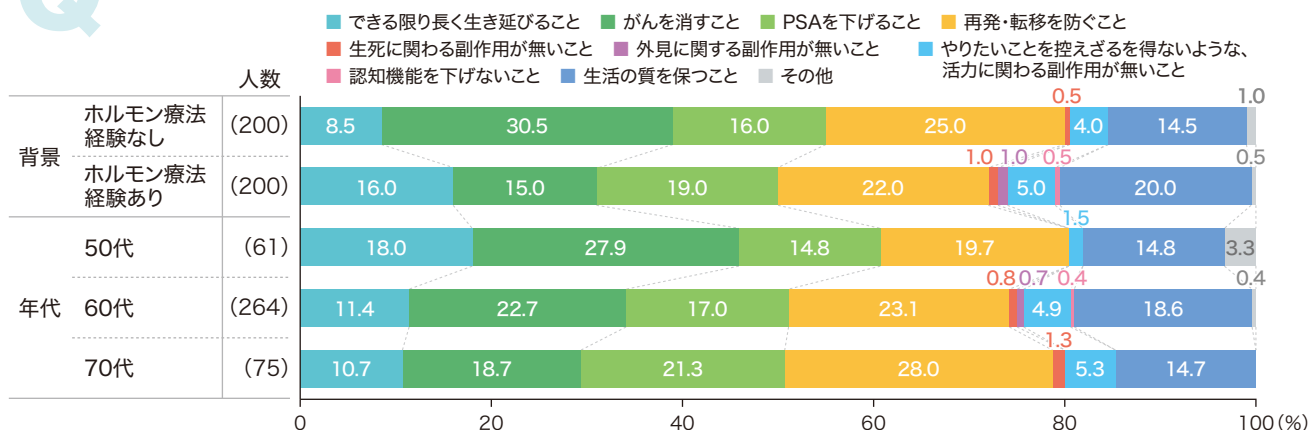
3) 日本臨床化学会「ALP、LDの測定方法の変更に際するご案内」<http://jscc-jp.gr.jp/> (2020/01/21参照)

患者さんひとりひとり、治療中に重視していることや知りたいタイミングは異なります。
大切なことですので、遠慮なさらず主治医や医療スタッフにお話してください。

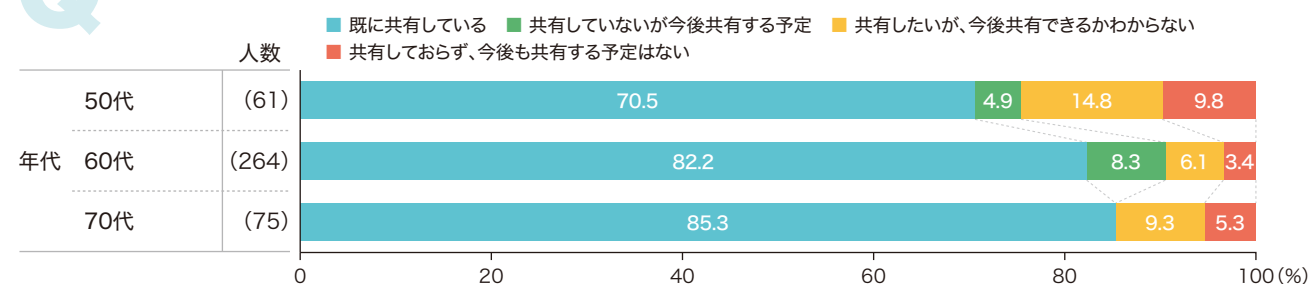


インターネットによる 前立腺がん患者さんの意識調査より

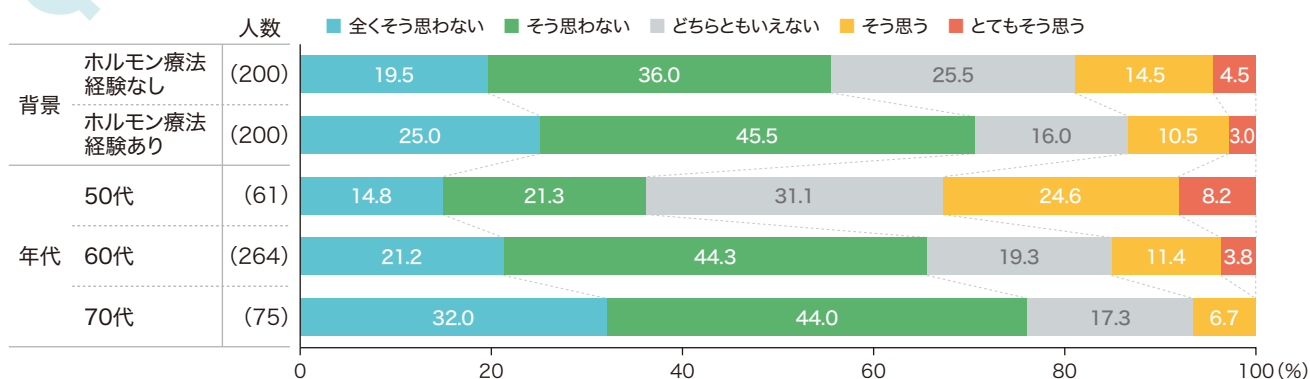
あなたが前立腺がんの治療に取り組む上で、もっとも重視していることを教えてください。



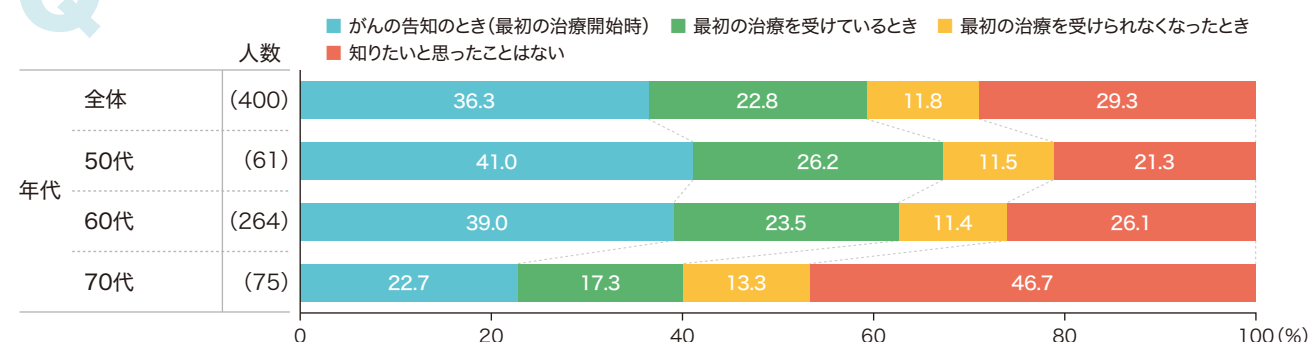
あなたが“治療に取り組む上で重視していること”は、主治医と共有していますか？



あなたのQOLに影響を及ぼしている気になる症状があったとします。
その症状を主治医に伝えたくても、ためらってしまうことがあると思いますか？



“最初の治療が続けられなくなった場合のこと”を知りたい時期(タイミング)を教えてください。



対象: 前立腺がんの確定診断を受けて前立腺がんの治療のため定期的に通院している50歳～79歳の男性400名
地域: 全国
実施時期: 2018年8月

バイエル薬品株式会社マーケティングアクセス本部によるインターネット調査

前立腺がんに関する情報を提供している主なウェブサイト



<https://pc-pc.org/>

2014年11月に設立(2016年4月NPO法人認可)された、前立腺がんでは日本初となる全国的な患者会。姉妹サイトの「腺友ネット」(<http://pros-can.net/>)では前立腺がんのさまざまな情報を提供しています。



<https://www.cancernet.jp/>

がん患者さんが本人の意思に基づき、治療に臨むことができるよう、患者擁護の立場から、科学的根拠に基づくあらゆる情報発信を行うことを使命として活動しているNPO法人。がんに関するさまざまな情報サービスを提供しています。

国立がん研究センター
「がん情報サービス」
(一般の方向けサイト)

<https://ganjoho.jp/public/>

国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センターが運営する「がん情報サービス」のインターネットによる情報提供サービスです。



バイエル薬品のホームページでは、過去に開催された前立腺がんセミナーの開催レポートをご覧ください。



<https://betterl.bayer.jp/zenritsusengan/event/seminar-report>

セミナー開催を通じて皆さまからご要望が多かった、前立腺がんと放射線療法について、患者さんやご家族、支援される方が知っておきたいことを全12ページにまとめた冊子を制作しました。バイエル薬品のホームページで内容をご覧ください。



<https://betterl.bayer.jp/zenritsusengan/known/about/radiation-therapy>

また、医療従事者の方はバイエルのMRにお申し付けいただくか、医療従事者向けサイトの資料センターからお取り寄せいただけます。

バイエル薬品は、患者さんのよりよい明日のために、患者さんとそのご家族の「満たされない願い」に応えていくことを使命として、医薬品を開発、製造、販売するだけでなく、患者さんが最適な治療にアクセスできるよう、情報を提供したり、環境の整備を支援したりすることも重要な役割と考えています。

「もっと話そう前立腺がん転移のこと-暮らしを守る早期対応のすすめ-」を運営するマーケットアクセス本部では、患者団体や自治体、地域医療に関わる皆さまとともに、さまざまな活動を実施しています。病気の予防や早期発見の啓発、ソリューションの提案、健康教育の支援などを通じて、人々の健康と公衆衛生に寄与してまいりたいと考えています。

<https://www.pharma.bayer.jp/ja/collaboration>

資料請求先

バイエル薬品株式会社

大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001

<https://pharma.bayer.jp>